

ほくじょう なかま
牧場の 仲間たちの 暮らし

よくば こ
欲張り子ネコ



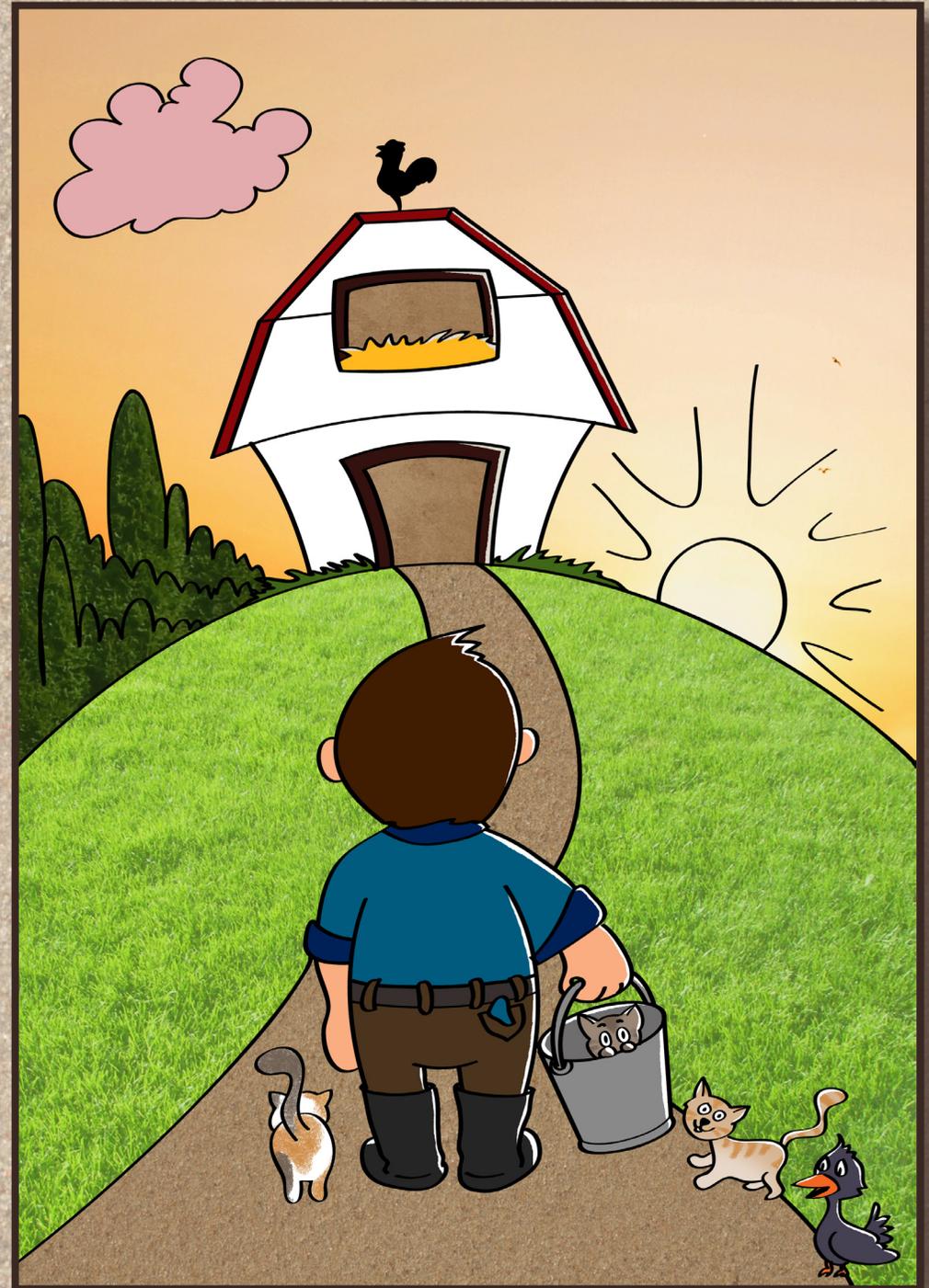
きょう はなし
今日のお話は、
れいぎただ よくば
礼儀正しさと 欲張りについてだよ。
はなし
ミケが そのお話を してくれるそうだよ。
じゃあ、ミケ、よろしくね。



だいす とき にち がい
わたしたちの 大好きな 時が、1日に 2回 あるの。
ちち じかん
ベツィの 乳しほりの 時間よ。
ほくじょうぬし さら きゅうにゅう い
牧場主は、お皿いっぱい 牛乳を 入れてくれるの。
きぬ
まるで 絹のように、のどごしが いいのよ。



おおよろこ
わたしたちは 大喜びで、
のうじょう
農場の あちこちから 集まって来るのよ。
まいあさまいばん な や たの
毎朝毎晩、納屋での ごちそうが 楽しみなの。





ちち 乳が しぼられている 間、わたしたちは、
あいだ
ベツィの 足や、牧場主の ブーツや、
あし ほくじょうぬし
ほくじょうぬし 牧場主の こしがけの 丸い 足に すりすりするの。
まる あし



ちち だけど、いざ 乳しぼりが 終わると、
お
みんな、競い合っ お皿に 突進したの。
きぞ あ さら とつしん



の 飲みやすい 場所を 取ろうと、
おしあいへしあいになつたのよ。
あ あ
ごちそうの 時間だというのに、
じかん
まるで 場所取り競争。
ばしよと きょうぞう





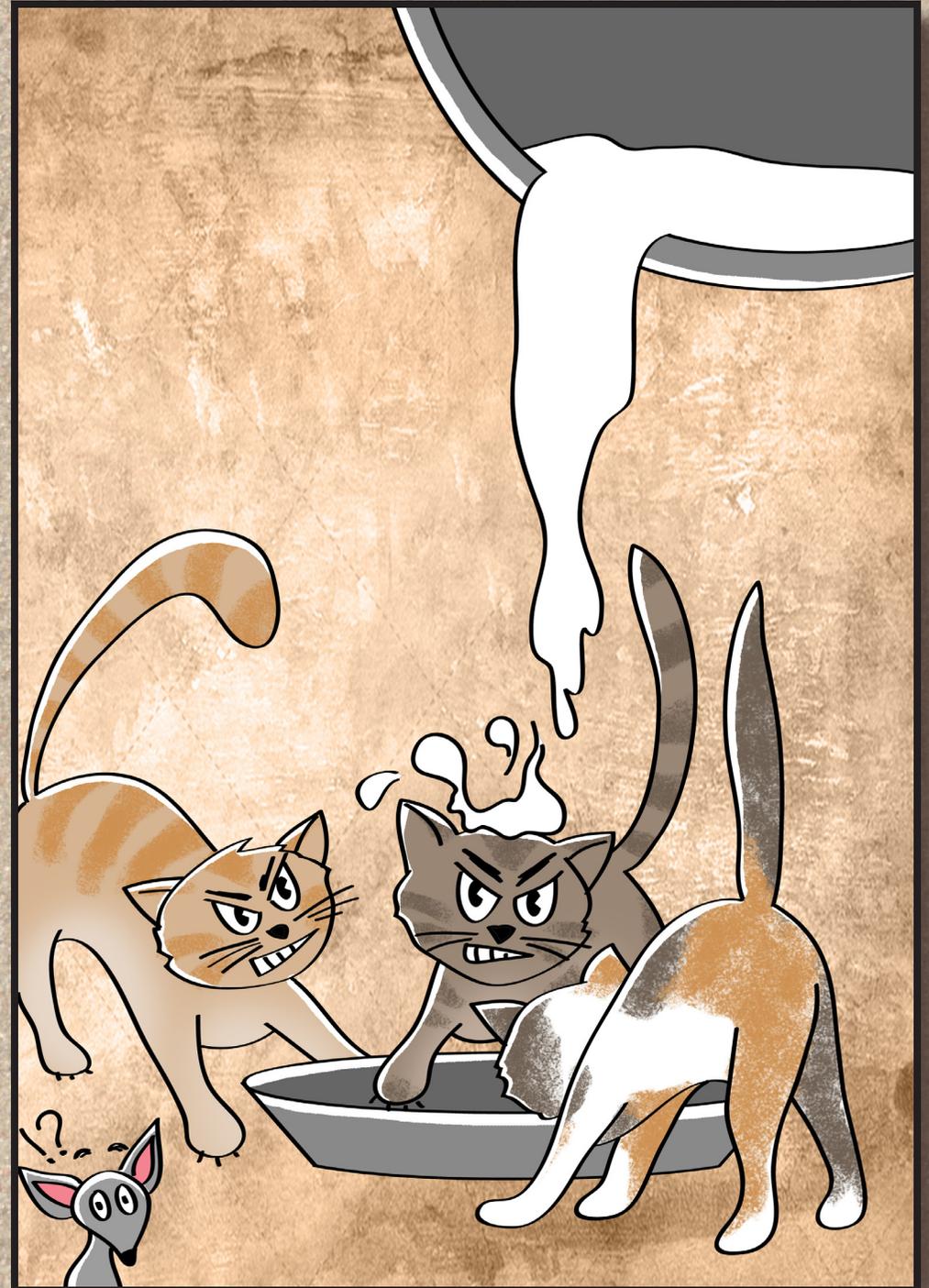
どうして いっしょに ^の飲まなくちゃ いけないの？
わたしたちは おし^あ合いへし^あ合いするばかり。
^{かな}悲しい こと^{だいす}に、^し大好きな ^{じかん}時間は
^{よくば}欲張りの ^{ワナ}に はまって ^{だい}台なしよ。



そして、ある夜^{よる}のこと。
わたしたちの ^{よくば}欲張りが ^す過ぎて、
^{ほくしょうめし}牧場主^{さら}が お皿^いに 入れてくれた ^{ぎゅうにゅう}牛乳を
^{だい}台なしに してしまったの。



^{ほくしょうめし}牧場主^{さら}が バケツを かたむけて、
お皿^{さら}に ^{ぎゅうにゅう}牛乳を ^い入れ始めると、
わたしたちが おし^あ合いへし^あ合いをしたので、
^{ぎゅうにゅう}牛乳が うまく お皿^{さら}に ^{はい}入らなかったの。





ぎゅうにゅう さら と あ からだ うえ がえ
牛乳は、お皿を 取り合う わたしたちの 体の上で はね返ったのよ。

それで 牧場主は 言ったの。

「今夜は 飲める 分が 減ってしまったよ。
ある分だけ 飲んだら、もう ねなさい。」



だいす ぎゅうにゅう ほんとう かんしゃ
「大好きな 牛乳を 本当に 感謝しているのなら、

もっと 落ち着いて 待つんだな。

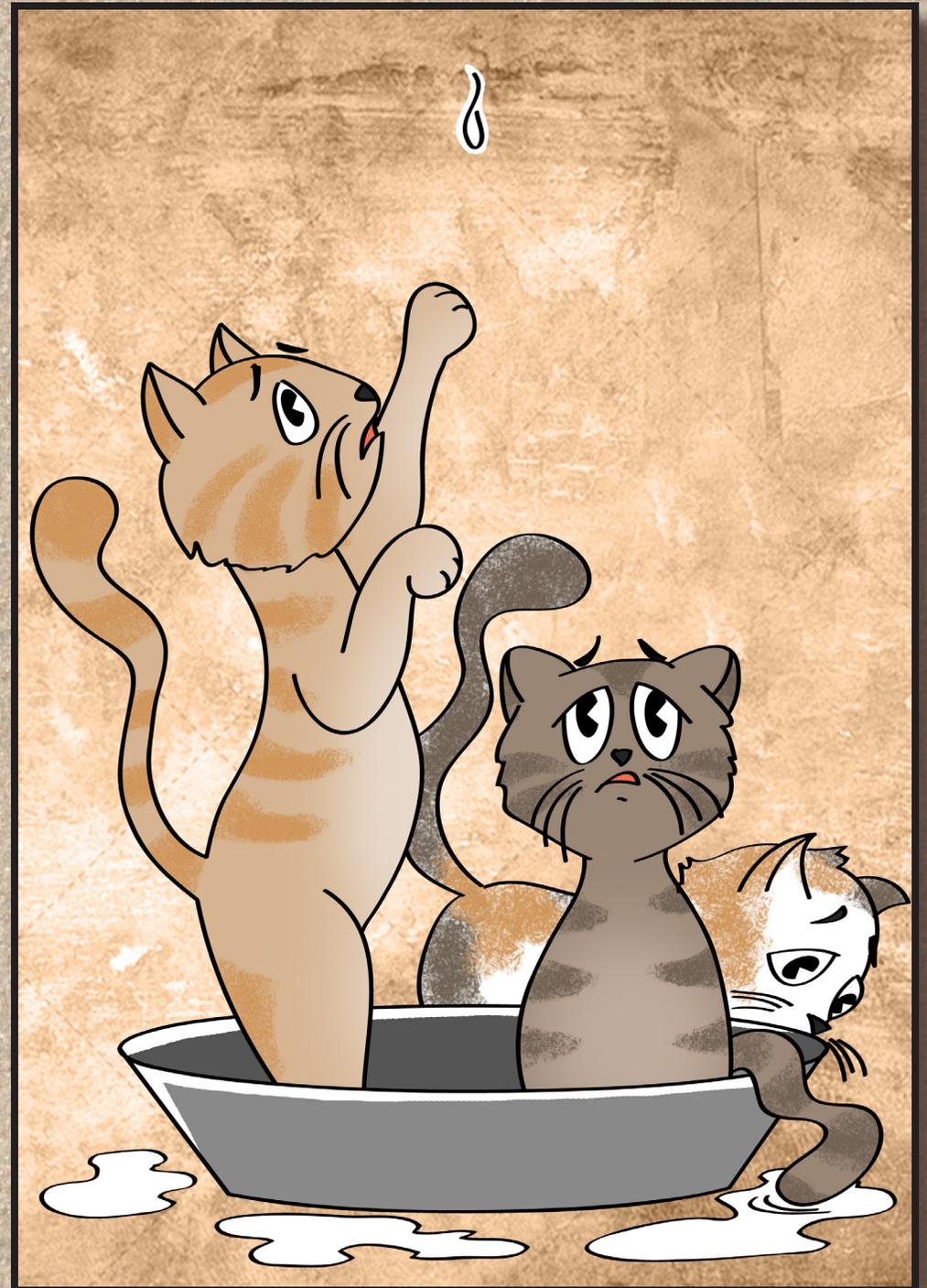
き 聞こえるのは うれしそうな 鳴き声だけの はずだよ。」



「おしあいへしあい しても、

たの 楽しい 食事の 時間には ならないぞ。

おまえたちの 体に 当たった 牛乳が
あちこち 飛び散って むだに なるだけだ。」





あくる朝、わたしたちは ぎょうぎよく すわったの。
お皿に 牛乳が 注ぎ入れられるまで 待ったのよ。
お皿の 牛乳を 全部 なめ終えた 後は、
床まで ちゃんと きれいに してね。



一番 わんぱくだった 子ネコたちが、
おぎょうぎよく 待つようになっただのよ。
年下の おとなしい 子ネコたちに
先に 飲ませて あげたりね。



1日の 終わりが 来た 時も、
朝と 同じく おぎょうぎよく したのよ。
ベツィヤ 牧場主にも 尊敬を 示し、
おたがい同士 ちゃんと 気づかい合っただの。

文: クリスティ・S・リンチ 絵とデザイン: ステファン・ミーラー
出版: マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2017年、ファミリーインターナショナル
"The Life of Friends: Greedy Kitties"--Japanese
関連の読み物はこちら ⇒ やさしさ、親切と礼儀、詩、牧場の仲間たちの暮らし

